

## 浅口市議会 2010 年 9 月議会 桑野議員の発言と当局答弁

### 平成 22 年第 4 回 9 月定例会 — 09 月 07 日—01 号

○議長（高橋範昌） 日程 1、会議録署名議員の指名を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第 81 条の規定により、議長において 7 番桑野和夫議員、8 番加藤淳二議員を指名いたします。

~~~~~

○議長（高橋範昌） 上下水道整備調査特別委員会委員長からの報告についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

桑野議員。

◆ 7 番（桑野和夫） 執行部にお伺いしますが、さっきの報告を見ますと、水道の問題で、西南水道企業団に統一するか、あるいは倉敷からの分水を受けるか、両方考えていくということですが、倉敷市からの分水については、二、三年前に厚生労働省の監査の際に、倉敷市を通じて本市に指摘がありました。その後、厚生労働省あるいは倉敷市から本市に指導があったのかどうか、あったのかなかったかについてお伺いをします。

○議長（高橋範昌） 上下水道部長。

◎上下水道部長（廣澤幸久） お答えいたします。

指導はございませんでした。

以上です。

○議長（高橋範昌） よろしいですか。

（「よろしい」の声あり）

質疑を終わります。

### 平成 22 年第 4 回 9 月定例会 — 09 月 14 日—03 号

○議長（高橋範昌） 御苦労さまでした。

次に、7 番桑野和夫議員、どうぞ。

どうぞ。

◆ 7 番（桑野和夫） それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

今回、私は非核平和行政の推進について、ごみステーションの設置、改修への適切な援助について、3 点目、金光町佐方地区を中心とした南部開発、同時に門前町であります金光町大谷のまちづくりについて質問をいたします。明確な答弁をお願いをいたします。

まず初めに、非核平和行政の推進について質問をします。

再び被爆者をつくるな、地球上から核兵器をなくせ、こうした被爆者からの叫びが今世界の声となって、大きく広がってきてまいっています。ことし 5 月にニューヨークで開か

れたNPT核不拡散条約再検討会議では、核兵器のない世界に向けて、大きな一步を築きました。また、ことしは被爆六十五周年という節目の年であります。唯一の被爆国として一丸となって、世界から核兵器をなくすため、また平和な日本にするため、役割を發揮することが強く求められています。

その上で、栗山市長にお聞きをします。

非核平和行政の推進のため、まず1つ目としまして核兵器の廃絶、同時に平和な日本を求める決意を浅口市内に示すため、例えば啓発塔の設置など、こうした啓発活動に取り組んでほしいと思いますが、答弁を求めます。

2つ目でありますが、広島や長崎で開かれる平和式典、あるいは原水爆禁止世界大会などの開催に合わせ、小・中学生を対象に、広島、長崎への平和バスを運行してはどうかと思いますが、答弁を求めます。

3点目であります。平和市長会議への加盟についてお伺いをします。この平和市長会議であります、1982年に国連本部で開催をされた第2回国連軍縮特別会議において、広島市長が、世界の都市が国境を越えて連帯をし、ともに核兵器廃絶への道を切り開こうと、核兵器廃絶に向けた都市連帯を呼びかけましたが、この平和市長会議はこの趣旨に賛同する世界各国の都市で構成をされた団体であります。

2010年9月1日現在の加盟都市数であります、144カ国、4,144都市で、国内の加盟都市は769都市であります。ぜひ、浅口市も加盟してはと考えますが、市長の見解をお聞きをします。

次に、ごみステーションの新設、改修についてお聞きをします。

具体的な質問の前に、ごみの問題での私の考え方について述べたいと思います。

私たちは毎日毎日、何らかの形でごみを出しています。一人一人が日々かかわっていますから、ごみ問題に関心が高まれば、ごみを減らす運動も大きく広がっていく可能性があります。

その上で、まずどんなごみがどこからどれくらい出ている、どう処分されているのか、そしてそれにはどれくらいのお金がかかっているのか、どんな影響があるのかなど、地域のごみの実態を市民に知らせてもらうことが大事だと考えています。そこから具体的に、何をすればよいのか見えてくると思います。

実際、全国的な世論調査でも、ごみ問題に関心があると90%近くの人が答えています。このように、ごみ、環境問題への関心は高く、ごみの分別や資源回収などに、みずからの行動することも含め、多くの方がその解決を願っています。ごみ削減の運動ではなかなか思うようにいかないことも少なくありませんが、市民のこうした思いに確信を持って取り組みを進めることが大事だと私は考えています。

その上で、具体的な質問に入ります。

来年度から、先ほどありましたように、金光地区を中心にごみの収集の分別化が拡大されます。品目については、先ほどの大西議員さんの質問でお答えがありましたので、こ

ここでは割愛しますが、品目が拡大された場合に、今のステーションでなく、新たなステーションを設置しなければならないステーションの数、また今のステーションを改修しなければならない場合の金光町でのステーションの数、これは幾らあるのかまずお聞きをします。

次に 3 点目、金光町佐方地区を中心とした南部開発、また金光町大谷地区の門前町としてのまちづくりについてお聞きをします。

この 2 つのまちづくりは、金光町の、そしてひいては浅口市の発展にとって大きな役割を発揮すると思います。

まず、南部開発であります、佐方地区には、四、五年先には玉島笠岡道路のインターチェンジが完成をする見込みであります。そうした中での開発であります、佐方には景観が豊かな中池があります。また、果物などの栽培も盛んであります。加えて、ひがさき踊りや吉備神楽、こういった伝統的な文化があります。私は、こうした自然や文化を生かした南部開発を住民合意でやっていく、これが大事だと思いますが、どうお考えか副市長にお聞きをします。

それから、大谷のまちづくりであります、昔のように、にぎわいのある大谷をつくりたい、これはだれもが期待することです。私は、平成 21 年 3 月の定例会の一般質問で、まちづくりへの提案として、まず 1 つ目、木綿崎山の活用、2 つ目、歴史的な建造物の活用、3 つ目、果物やめん、魚介類の直売所の設置、こういう提案をしましたが、このことについて、市としてどう検討されてきたのかお伺いをします、まず。よろしく願いします。

○議長（高橋範昌） まず最初に、非核平和行政の推進をについての答弁を、市長のほうからお願いいたします。

市長。

◎市長（栗山康彦） 非核平和の運動についての質問にお答えをいたします。

我が国は、世界唯一の被爆国として戦後 65 年を迎えました。今なお被爆による後遺症等に苦しむ方が多くおられる中、全人類の共通の願いである核兵器の廃絶と恒久の平和を、私たち日本人が、全世界に訴えていかなければならないというふうに思っております。

浅口市では、昨年 3 月の議会定例会において、非核三原則の堅持と、核兵器廃絶を強く願う非核平和都市宣言に関する決議がなされました。そして、昨年 12 月には、ヒロシマ・ナガサキ議定書に賛同し、すべての国家が同議定書を遅滞なく採択すること等を求める都市アピールに署名を行っております。また、毎年 7 月下旬には、非核平和を訴える平和大行進の一行を迎え、休憩所の提供等を行ってきたところでございます。

核兵器廃絶と平和な日本を求めるための啓発運動の実施につきましては、核兵器の脅威と平和のとうときを次世代に引き継いでいくことは、大切であると考えておりますので、地域レベルにおいて私たちが何をしていくべきか、今後研究してまいりたいとふうに思っております。

なお、2 番目の広島、長崎への平和バスの運行につきましては、現在のところ計画はいたしておりません。また、平和市長会議への加盟につきましては、同会の今後の活動状況等や近隣自治体の動向を踏まえ、加盟の是非を検討したいと考えておりますので、御理解を賜りますようによろしく申し上げます。

以上でございます。

○議長（高橋範昌） 次に、ごみステーションの設置、改修に適切な援助についての質問に生活環境部長、答弁をお願いします。

◎生活環境部長（柚木忠明） ごみステーションの関係で、新たに金光地域の品目の拡大等に関します、改修に必要な援助ということでございますけれども、先ほどの御質問の中で、この拡大される品目についてのステーションで新たな設置箇所、そしてステーションの改修しなければならない数ということの御質問がございました。

今現在、私どものほうで各地域の方々、そして職員出向きまして、現地を調査をさせていただいてるところでございます。そうした中で、御承知のように、金光地域では今現在が可燃ごみの収集箇所が 160カ所、そして資源収集箇所が 159カ所と理解をさせていただいております。

そうした中で、新設の数はまだこちらのほうが集約ができていませんけれども、そのうち改修が必要であろうと思われる箇所数が 54カ所でございます。そうした品目の増加に対応するための収集拠点施設等となるごみステーションの関係、この整備がおこなわれているのが現状でございます。

以上です。

○議長（高橋範昌） では、続いて南部開発、大谷のまちづくりの推進についての答弁は副市長、お願いします。

◎副市長（田村諭） お答えをいたします。

まず、南部開発でございますが、南部開発は、平成 12 年度に国道 2 号玉島笠岡道路が都市計画決定をされまして、佐方にインターチェンジができると、こういったことから、金光町の南部地域に計画を策定したものでございます。特に、その中で緑豊かな山々、そしてまた地域の潤いのある自然環境を生かした自然公園、そしてまたアクセス等の利便性を生かした産業団地、また観光 PR の拠点となる道の駅等を整備する計画を策定をいたしまして、その後、合併のときにも浅口市総合計画に引き継ぎまして、位置づけをしております。

しかしながら、その後、同じ佐方地域に工業団地を計画をいたしましたことから、見直しをする必要があると、こういったことから、これから特に工業団地等の計画との調和を図っていきたいというふうに考えております。

次に、大谷のまちづくりについてでございますが、大谷のまちづくりは、もう今から十五、六年前に大谷地区を、約 5ヘクタールを区画整理で整備をしようといった計画がございました。このときには、大谷のまちづくり協議会といった地元の有志の会と協議をこな

がら進めてきた経緯がございますが、その計画も途中でストップしたという状況もございます。その後、大谷地区については、今、元気いっぱい協議会、まちづくりの、地元の皆さん方のそういった組織が立ち上がっております。その協議会のといたしますか、その会の中で今まで行っておりますのが、七夕祭りの飾りつけとか、下淵駐車場のトンネルペイント、そしてまた流しそうめんの試食とか、こういったソフト面でいろいろ行ってきております。

確かに、大谷の町は金光の重要な、特に玄関口といたしますか、門前町としてこれからも発展をしていっていただきたい、何か施策があればということでもいろいろ検討しておりますが、特にまた議員さんから御提案いただいた先ほどの木綿崎山、そしてまた歴史的な建造物、果物の直売所等についての検討は、十分な議論はまだできておりません。これから引き続きまして協議をしながら、にぎわいのある、魅力のあるまちづくりを目指して努力をしていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いをいたします。

以上でございます。

○議長（高橋範昌） 桑野議員、再質問は。

◆7番（桑野和夫） まず、非核平和行政であります、啓発塔などについては前向きに取り組んでほしいです。

それから、広島、長崎への平和バスであります、私は子供たちに戦争の悲惨さ、そして同時に平和のとうとき、これを知ってもらうため、このことは本当に大事なことだと思います。これらは平和を愛する人間になるための、絶好の機会になるというふうに考えています。オーストラリアに子供たちを派遣する、もちろんこれも大事であります、広島、長崎は平和の象徴であります。ぜひ、平和バス実現をしてほしいと思いますので、再度答弁をお願いをします。

それから、平和市長会議への加盟であります、加盟都市数であります、2009年7月1日の時点では2,963でありましたが、それが先ほど言いましたように、2010年9月1日の時点で4,144というふうに、非常にふえてきています。県内では、8つの都市が加盟をしています。岡山市、倉敷市、津山市、玉野市、瀬戸内市、総社市、笠岡市、井原市、以上8つの都市が加盟をしてきています。加盟をする上で、費用は全く要りません。ぜひ、栗山市長が平和を愛する、そういう政治姿勢を示すためにも、加盟を検討してほしいと思いますが、ぜひ答弁を再度求めます。

それから、ごみステーションであります、部長にお聞きをします。相当な数が改修が必要ということではあります、期間はもう半年しかありません。問題なのが設置場所だと思っております。

例えば、金光町の占見新田や大谷のように住宅が密集している場所では、市民が場所を探すのが大変困難というふうな声を聞いています。大部分、ステーションの設置場所になると、岡山県が管理する土地を含め、官地、公の土地が多くなると思いますから、地元だけではなかなか探せない、これが実態でありますから、ぜひ市のほうで親切丁寧な相談に

乗ってほしい、このことについて明確な答弁をお願いしたいと思います。

同時に、現在浅口市ごみステーション施設整備補助金交付要綱に基づいて、新設または大きな改修の場合補助がありますが、これが現在最大で30万円であります。分別が拡大をされますと、大きさも必要ですし、強度も必要になって、とても30万円では足りない、こういう声があります。ぜひ、地元の負担を軽くするためにも、補助の増額を求めたいと思いますが、答弁を求めます。

次に、南部開発であります。以前と状況が変わってきてるのはよくわかります。当時の道の駅の構想、あるいは中池周辺の遊歩道の構想、これはもう少し具体的に、今の時点でどうお考えかお聞きをします。

それから今、佐方地区では地域を盛り上げようと、さまざまな活動を展開をしています。その一つとして、里山づくりということで、佐方にあります竜王山の登山道の整備を進めて、竜王山からすばらしい景観を見てもらおうという取り組みもしています。こうした取り組みについて、もちろん地元も頑張りますけども、必要な援助を市としてもお願いしたいというふうに思いますので、答弁を求めます。

それから、大谷のまちづくりであります。大谷地区元気いっぱいまちづくり協議会、これが先ほどありましたように、平成17年に発足しまして、さまざまな活動を展開をされています。大事なことは、この協議会と金光教本部と浅口市がどのように町を変えていくか、これをしっかりと議論していく、これが私は大事だと思います。実際に、金光教の祭典に春秋それぞれ4万人が来られ、同時に初もうでには約10万人の方が全国各地から訪れます。こうした参拝者を、いかに大谷の商店街に足を運んでもらうか、これが私は大事だと思いますが、その点で何か具体的な構想があるかどうか、副市長にお伺いします。

それから、大谷のまちづくりの基金がありますが、ことしの3月末時点で1,600万円あります。これはいつどのようにお使いになるのか、お聞きをします。

以上、よろしくお願ひします。

○議長（高橋範昌） 再質問に対するの答弁を求めます。

まず最初に、非核平和行政の推進については、市長のほうからお願いいたします。

市長。

◎市長（栗山康彦） まず、広島、長崎への平和バスの運行についてでありますけども、これは先ほど申し上げましたように、現在のところ計画はいたしておりません。しかし、核兵器廃絶と平和な日本を求めるための啓発活動の実施につきましては、核兵器の脅威と平和のととさを次世代に引き継いでいくことは、非常に大切というふうに考えておりますので、御理解をいただきたいというふうに思っております。また、平和市長会議への加盟につきましては、今後前向きに検討したいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（高橋範昌） 次に、ごみステーションの設置、改修に適切な援助をについてを生活環境部長、どうぞ。

◎生活環境部長（柚木忠明） 先ほど御質問がありましたように、今後におきまして、適正な設置場所やステーションの規模につきまして、スムーズな運営を図るためにも、早急に地域の方々と連携を密にしながら検討する必要があると考えております。

そして、補助金につきましてでございますが、現在の補助金、先ほども御質問の中に触れられましたように、浅口市ごみステーション設置の整備補助金交付要綱での補助金額は、新設の場合や資源物用を増設した場合、最大で先ほどのお話のように30万円、そして修繕の場合は5万円を限度といたしております。

ただし、今後は設置場所や規模によりまして多大な経費がかかり、地域の負担が大きくなる状況がふえてくると予想されます。これらの対応につきまして早急に検討をしてみたいと考えておりますので、何とぞ御協力、御支援をいただきますよう、よろしく願いできればと思います。

以上です。

○議長（高橋範昌） 次に、南部開発、大谷のまちづくりの推進をについての答弁を副市長のほうからお願いします。

◎副市長（田村諭） お答えをさせていただきます。

まず、南部開発の中で、道の駅、中池を具体的にもう少し詳しくという御質問でございます。

道の駅につきましては、国道2号のバイパスのほりといいいますか、できたらバイパスの路線のところにしたいということで、国にも要望をその当時してまいりましたが、インターチェンジとインターチェンジの間が非常に短いと、こういったことから、安全性の面から道路上には無理だと、こういう話がございました。

次に、方法としては、左方インターチェンジで一たんおりて、その周辺へ道の駅をすることは可能であると。国のほうとして、特にこれは補助とかというものは一切ございません。するとなれば、市のほうが全額お金を出して整備をする必要が出てくると、こういったことから、場所等についても検討もしていましたが、非常にそこへ行くまでの道路とかいろんな問題がありまして、なかなか候補地がない、こういった状況もございました。

計画の中には、一応場所を示しておりましたが、やはりこの場所が、特に民地がございますし、非常に難しいということもございまして、それ以上計画は進んでおらないのが現状でございます。そうした中で、工業団地の計画が同じような位置に計画されましたので、今そちらのほうを進めていきたいというふうに考えておるところでございます。

次に、中池の周辺の整備といったことでございます。中池につきましては、工業団地の計画の中でも中池については現状のまま、今の場所へそのまま残して、その周辺を環境整備をしたいと、工業団地の計画でも池の環境整備は計画をしておりますが、今地元の方が里山づくりと、こういうことで、竜王山への登山道について、草を刈っていただいたり、道を整備していただいたり、非常にありがたいというふうに思っております。この活動につきましては、里山づくりの団体に対しまして10万円、そしてまた県のほうからも5万

円といったお金を交付をさせていただいております。こういったことで、できる援助はしていきたいというふうに考えておるところでございます。

次に、大谷のまちづくりについてでございます。今後、どういうまちづくりをするのかといったことではございますが、元気いっぱいまちづくり協議会において、にぎわいを取り戻す方策など、魅力あるまちづくりについて協議をしていきたいというふうに考えております。特に、金光教、そしてまた大谷の町の方、それと市が一体となって、こういったことができるかというのを、これからしっかり議論をしていきたいというふうに考えております。

また、参拝の方が大谷の町に余り寄らないというふうなお話も聞いております。特にこれは道路の関係等もあるかと思いますが、下淵駐車場から金光教へお参りをされて、お参りが済むと、すぐまたバスで帰られると、町の中にはほとんど入ってこられないということも聞いておりますが、1つには町に魅力がなくなったのかなということも感じますので、そのあたりを、少しでも滞在時間が長くなるように、町ににぎわいを取り戻していくように、今後みんなと一緒に考えていきたいというふうに考えております。

また、基金でございますが、今先ほど議員さんも言われましたように、基金が1,600万円程度あります。この基金を協議会の中でどういうふうに使っていくかというのも十分議論し、大谷の町の活性化のために使っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（高橋範昌） 桑野議員、再々質問ありますか。

どうぞ。

◆7番（桑野和夫） まず、ごみの問題で市長にお聞きをします。

ごみ問題の解決は、市民と市役所の協力、そして生産者責任の徹底、これでこそごみの減量化は成功すると思っております。親切丁寧なステーションの整備での対応、また施設整備の補助金増額について、市長としての見解を求めます。特に、補助金の増額の問題では、先ほど来ありましたように、ごみの量が減れば、今度、倉敷西部清掃施設組合への負担金も当然減少をします。そういった財源も活用しながら、補助金の増額の検討を前向きにお願いをします。同時に、ごみ問題あるいは環境問題は、今後の浅口市にとって大変に重要な問題でありますから、市役所の体制の強化も含めて、御検討をお願いしたいと思います。

それから、南部開発と大谷のまちづくりであります。どうお考えか、市長の見解をお聞きします。地元の人聞いて、元気が出る、展望が持てる、頑張ろう、そういった気持ちになれるような答弁をお願いします。

○議長（高橋範昌） それでは、ごみステーションの関係と、南部開発、大谷のまちづくりについての答弁を、市長のほうからお願いいたします。

どうぞ。

◎市長（栗山康彦） それでは、ごみステーションの補助につきましてお答えをいたします。



先ほど部長が申し上げましたとおり、ごみ収集の分別化の拡大に伴い、改修費用等で地域の負担が大きくなることは、議員の言われるとおり、非常に重要な課題でありますので、早急に対応策を検討してまいります。御協力、御支援をいただきますように、よろしくお願いをいたします。

続きまして、南部開発、大谷のまちづくりの件でございますけれども、南部開発につきましては大きな事業であります、浅口市工業団地計画との整合性を図りながら、開発計画について、今後検討してまいりたいというふうに考えております。

また、副市長が申し上げました竜王山への整備等についての補助、これは私も現在、里山対策として頑張っておりますので、非常にこういった団体を評価しております。どういう形でさらなる援助ができるか、検討してみたいというふうにも思っております。

次に、大谷のまちづくりについてでありますけれども、全国から春と秋の大祭、毎月のお参りに、年間を通じて約30万人の方が大谷の地区を訪れるようでございます。まちづくりや地域の活性化については、そこで生活をして、地域のことを一番よく知っている住民の方々によるまちづくりというものが理想であります、そして、そこへ行政としてできることを積極的に協力していくという考え方が重要と思いますので、今後も、まずは地元や大谷地区元気いっぱいまちづくり協議会の意見をしっかりと聞いて、互いに議論をしながら、魅力のあるまちづくりを進めてまいりたいというふうに考えております。今までこういった協議会、若い人たち、やろうという人たちとの話し合いというものが、なかなか持たれてなかったというふうに私もお聞きしておりますので、積極的にそういう議論をしていくところから始めていこうと思っております。

また、少しまちづくり基金のことも触れましたけれども、これもこういう議論をした上で、あるいは事業を進める上で、すぐれたアイデアや必要なものに大いに活用していきたいなというふうにも思っております。

以上でございます。

(7番「ありがとうございました」の声あり)

○議長（高橋範昌） 御苦労さまでした。

ここで休憩いたします。

-----

## 平成22年第4回 9月定例会 — 09月24日—05号

○議長（高橋範昌） ほかに討論はありませんか。

反対の討論がありますか。

(「賛成」の声あり)

賛成ですか。

どうぞ。

◆ 7 番（桑野和夫） 発議第 10 号について賛成の立場で討論に参加します。

この中で、調査案件にあります定数や議会費についても大事なことでもあります、私は何よりも議会というのはルールや事実に基づいて民主的に議論をする、これが大事であります。そういった点で、この間、問題がなかったかどうか私は疑問であります。

最近、いろんな議会で議会基本条例を決める議会も相次いでいます。私は、そういう点も含めて議会活動のあり方、この点についてしっかりと議論することが大事だと思います。

以上で賛成討論を終わります。

○議長（高橋範昌） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（高橋範昌） これで討論を終わります。

採決に入ります。

発議第 10 号議会改革特別委員会の設置については原案を可決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（高橋範昌） 起立全員でございます。よって、発議第 10 号は原案のとおり可決されました。

ここで暫時休憩します。